



次世代と地域文化をつなぐ
ミュージアムプロジェクト



令和3年度文化芸術振興費補助金
(地域と共働した博物館創造活動支援事業)



宮津城 AtoZ

地中に眠る宮津城跡

宮津城大手門 (CG制作 古川輝夫)



はじめに

宮津城は、天正8年(1580)に織田信長から丹後を与えられた細川藤孝(幽齋)によって丹後支配の拠点として築かれました。丹波・丹後・但馬攻略に続く毛利攻めを意識した宮津湾岸への築城は、本格的な海城の先駆けとなるものでした。

宮津城は、関ヶ原の戦いの前哨戦である田辺城籠城戦を前に幽齋によって焼き払われますが、戦いの後に丹後を与えられた京極高知によって再建され、嫡男高広の代に改修・拡張されます。その後、領主は次々に変わりますが、明治の廃城令まで京極高広によって寛永年間に完成された縄張が維持されました。

明治19年に大手橋が石橋に架け替えられ、大正13年に宮津駅が開業すると、市街地と駅との間に位置することになった宮津城跡が地上から失われ、人々の記憶からも消えてゆくこととなりますが、1980年代から宮津城跡の発掘調査で堀や石垣が見つかるようになると、絵図や文献なども参照した研究が進み、宮津城の姿をCGで再現する試みも進化を続けています。

CONTENTS

A 天橋立に明智光秀

B 橋(大手橋)

C CGでよみがえる宮津城

D 土橋

E 絵図(正保宮津城絵図案)

F 藤孝

G 学校の正門

H 本能寺の变

I 一色稲荷

J 城下町

K 京極高知

L Line(線)

M 樹形虎口

N 信長黒印状

O 大手門

P 警察署

Q クエストジョン

R 歴史の館

S 血屋敷

T たもの木

U 内堀

V パラエティ

W 壁

X キリスト教

Y ヨーロッパ陶器

Z 絶景



天正9年(1581)4月12日、細川藤孝父子は、宮津を訪れた明智光秀父子・里村紹巴・津田宗及を伴って飾り船で九世戸を見物した後、橋立の文珠で接待しました。細川幽斎(藤孝)は慶長4年(1599)には烏丸光広らと文殊堂で歌会を催しました。智恩寺には、この時に詠んだ和歌の短冊が残っています。

A 天橋立に明智光秀

Amanohashidate
Akechi Mitsuhide

宮津城大手門と城下町を結ぶ橋です。木造だった橋は、明治19年に栗田トンネル掘削時に出た石材を用いて三連アーチの石橋に改築され、京都宮津間車道の一部になりました。西詰(市役所前)にある「改造大手橋碑」には、「城址を平らげて、更に新道を築く」とあり、宮津城が削平されたことがわかります。

B 橋(大手橋)

Bridge (Otebashi)

街の電気屋さん古川輝夫さんが、大手門の古写真を見て、この向こう側はどうなっていたのか知りたいなと思って、独学で作りはじめたコンピュータグラフィックスによる宮津城。移築された建物遺構を実測し、発掘調査成果も反映して、年々バージョンアップされ、宮津のイベント「和火」などで上映されています。

C CGでよみがえる宮津城

CG



細川幽斎像（天授庵蔵）

宮津城二の丸東門前の土橋です。東の内堀に架かる土橋を渡って間口3間の冠木門から枳形に入り、右（北）に折れて櫓門をくぐると二の丸に至ります。関西電力宮津営業所の駐車場で、警察署で見つかった内堀の続きと土橋・枳形虎口や石組みの排水路が見つかりました。営業所の北側に解説板が設置されています。

D 土橋

Dobashi

絵図（正保宮津城絵図案）正保年間（1645年頃）に幕府の指示に従って提出した城絵図の下書きです。測量して作られた地図なので、現在の市街地図と照らし合わせると、今も残る堀跡の水路や発掘調査で見つかった堀の位置を手掛かりに、地中に眠る宮津城の姿を浮かび上がらせることができます。

Ezu

E 絵図（正保宮津城絵図案）

宮津城を築城した細川藤孝は、実はこの時期には長岡藤孝と名乗っていました。室町将軍に仕えていた時の細川を捨て、信長に与えられた長岡（京都府乙訓郡）の地名を名字としていたのです。史料には「長岡兵部大輔藤孝」略して「長兵」などと記されます。その後、本能寺の変が起ると出家して幽斎玄旨を名乗ります。

Fujitaka

F 藤孝



明智光秀木像(慈眼寺蔵)

今の宮津幼稚園付近にあった三の丸南東の柵形虎口の二の門で、京極氏時代には馬場先冠木門でしたが、青山氏時代に門内に太鼓櫓が設けられたことから太鼓門と呼ばれました。明治の廃城後に宮津小学校の正門に使用され、老朽化に伴い裏門に移築されていたが、近年補修されて再び正門として使われています。

Gakkou no Seimon

G 学校の正門

明智光秀は、本能寺で織田信長を倒した後、丹後攻略を共に進め、姻戚関係にもあった細川藤孝・忠興の協力を求めました。ところが、父子は味方せず、藤孝は隠居して幽齋と名乗ります。藤孝父子が光秀に同調しなかったことは、本能寺の変後の歴史だけでなく、宮津城にも大きな影響を与えています。

Honnouji no hen

H 本能寺の変

中世丹後の国の守護であった一色氏の当主義定は細川藤孝の娘伊也と結婚し、奥丹後を支配していました。山崎の戦いでは明智光秀に味方して、その後、細川家家臣の屋敷で忠興らに謀殺されました。この事件を契機に、丹後一色氏は滅亡しましたが、その祟りを恐れて祠を建てたのが一色稲荷の起源とされています。

Issikiinari

I 一色稲荷



京極高知像（常立寺蔵）

北側が海に面した宮津城は、他の三方に大手川や堀を備え、その外側に城下町が広がっています。城の東と南には武家屋敷が作られ、大手川の西側には東西方向の町通りに面して町屋が建ち並びました。城下町の道路は現在もほとんど同じ位置にあって、江戸時代の地図をたどって歩けるほど町割りが残されています。

Jyookamachi

J 城下町

慶長5（1600）年秋、関ヶ原の戦いの前哨戦で西軍に攻められた細川幽斎は、田辺城（舞鶴市）に籠城する際に、宮津城を焼きました。戦いの後、丹後を与えられた京極高知は宮津城を再建しました。現在わずかに痕跡が残る宮津城は、高知が再建し、嫡男高広が改修・拡張して、寛永年間に完成したものです。

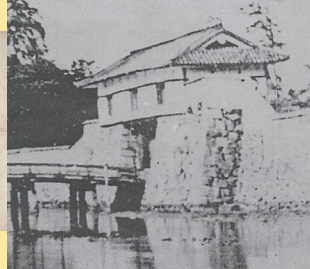
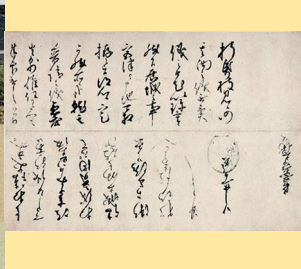
Kyougoku takatomo

K 京極高知

現在の宮津の道路には、宮津城の外堀や内堀の線に沿ったライン（線）＝道がたくさん残っています。宮津駅前から真西に延びる道路は内堀の堀端の道、宮津小学校北側の道路は外堀の堀端の道で、何回か屈曲しながら宮津駅の東側まで続いています。このようなラインも地中に眠る宮津城を探る手掛かりになります。

Line

L Line（線）



ふたつの門と堀に囲まれた四角い空間（枅形）を備えた城の出入口（虎口）のことで、一の門から侵入した敵を足止めして周囲から攻撃できる強固な出入口です。宮津城では、関西電力の駐車場や宮津小学校前の交差点の下で見つかっています。宮津小学校前の枅形虎口では一の門の正面だけに石垣を使っていました。

M 枅形虎口

Masugatakoguchi

織田信長が細川藤孝に宮津城築城の許可を出した手紙です。信長は「明智光秀と相談して丈夫に作れ」と手紙で命じています。「きっと良い所なのだろう」という文面から、信長が宮津を知らなかったことがうかがえますが、近世都市宮津の出発点に織田信長や明智光秀がかかわっていたことがわかる資料です。

N 信長黒印状

Nobunagakokuinjyou

城の正門である大手門は、西堀（大手川）に面して建てられ、西に広がる城下町との間には大手橋が架けられました。明治初めに撮影された宮津城の唯一の写真にもその姿が写っています。17世紀初めの檜台石垣に、16世紀末の古風な門櫓が載っていますので、櫓は田辺城などから移築されたものでしょう。

O 大手門

Otemon



1980年、宮津警察署が現在地に移転する前に宮津城跡の最初の発掘調査が行われました。敷地の北方にある「たもの木」を手掛かりに設定された調査区から、想定されたとおりに内堀と石垣が見つかりました。この発見によって、地上からは失われてしまった宮津城も、地下には良く残っていることがわかりました。

P 警察署

Police Station

宮津警察署近くのガソリンスタンドの中を斜めに貫く不自然な通路。どうしてこんな通路ができたのでしょうか。江戸時代の絵図と照らし合わせると、城の城壁と同じ角度のようですから、何か関係があるのかも!? このように見過ごしてしまいそうな小さな問い(クエスチョン)が新発見につながるかもしれません。

Q クエスチョン

Question

「みやづ歴史の館」や島崎公園付近は、絵図と照らし合わせると海の中になります。このあたりは、大手川が運んできた土砂が堆積して、江戸時代を通じて長く伸びていった砂嘴を利用した埋立地なのです。幕末には沿岸防衛のために亀ヶ丘や桜山から土砂を運んでお台場が築造され、大砲15門が据えられたと言います。

R 歴史の館

Rekishinoyakata



お菊さんの幽霊が、「1
ま〜い、2ま〜い」と
お皿を数える「番町皿
屋敷」や「播州皿屋敷」
などで有名な怪談は、
大膳橋のたもとにある
菊姫稲荷に伝わる
「丹州皿屋敷」がルー
ツとも言われます。こ
の菊姫稲荷の建って
いる土壇は、絵図と
重ね合わせると、波
路口の榊形虎口を囲
む石塁の一部のよう
です。

S 皿屋敷

Sarayashiki

宮津城の古い写真に
も写っている古木で、
郷土史家の中嶋利雄
氏が二の丸の北東隅
の位置を推定する根
拠になりました。国道
拡幅の際にも、市民
の嘆願で伐採をまぬ
がれ、今も警察署の
前に雄大に立って、宮
津城の面影を感じさ
せてくれています。木
の根元をよく見ると、
かつての宮津城の石
垣が顔をのぞかせて
います。

T たもの木

Tamonoki

宮津駅は、絵図と照
らし合わせると、内堀
の南東角付近にあた
ります。今の駅舎を建
てる前の発掘調査で、
幅22mの堀が確認さ
れました。待合室が
ちょうど堀の上に当た
ります。普段、何気な
く使っている駅も、実
は足下に宮津城が
眠っているのです。内
堀は、駅から真西に
延びる道の北側の家
並みの下に続していま
す。

U 内堀

Uchibori



本庄宗秀甲冑着用像



細川ガラシャ像(大手川ふれあい広場)

宮津の藩主は、外様大名の京極家が3代で改易となった後、幕府領を経て、永井家2代、阿部家1代、奥平家1代、青山家2代、松平(本庄)家7代と、譜代大名の領主がめまぐるしく変わることになります。藩主の多くは奏者番や老中などの幕府の要職を務める家で、本庄家は五代將軍綱吉の母桂昌院の弟に始まる家です。

V バラエティ

宮津の町には、宮津城の外堀・内堀に沿った道がたくさんあります。特に西の外堀にあたる大手川沿いの白壁伝いに歩くと、川が宮津城と城下町を分けていたことが感じられます。この道は、平成16年の台風23号による水害後の河川改修に伴って整備され、公募で「しらかべのみち」という愛称が決められました。

Wall

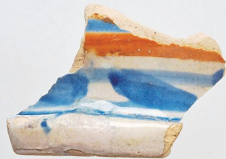
W 壁

明智光秀の娘である玉は、細川藤孝の嫡男忠興の妻です。本能寺の変の後、謀反人の娘としていったんは離縁されますが、後に復縁します。キリスト教に入信し、ガラシャの名前をもらったのは宮津を去った後ですが、玉は細川ガラシャとして今も宮津市民に親しまれています。藤孝や忠興よりも有名かもしれません。

Xtianity

X キリスト教

Variety



宮津駅の地中の堀の中から、ヨーロッパ産の陶器が出てきました。オランダで作られたマジョリカ陶器のアルパレルロという筒形の広口壺の底部片で、藍や橙色で彩られています。京極氏時代の宮津城に、長崎を経て入ってきたようです。宮津城にあった宝物が、今も他の地点にも眠っているのでしょうか。

Yoroppa Touki

Y ヨーロッパ陶器



丹後に入った細川藤孝が最初に城を構えたのは、宮津城南東の八幡山です。八幡山には中世から山城が築かれていましたが、山頂部の曲輪に藤孝の時期の石垣が残っています。八幡山城からは宮津城の眠る市街地が間近に見え、遠くには天橋立、古代中世の丹後の中心であった府中地区や成相山が一望できます。

Zekkei

Z 絶景

あとがき

現在の宮津市街地には、かつてお城があったことを思わせる石垣や堀などの目立つ遺構は残っていません。次世代と地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト(略称「つなプロ」)では、宮津城の歴史などを学習したうえで、江戸時代の絵図や発掘調査の成果をたよりに、学芸員といっしょに街を歩いて地中に眠る宮津城の痕跡を発見し、新たに発見した魅力を広く発信することを企画しました。プロジェクトには、地元の中学生を中心に、小学生から高校生までが参加して、事前学習や街歩きで見つけたこと、感じたことをA to Zと手描き地図の形にまとめました。この冊子が、みなさんを宮津の新たな魅力へとつなぐ一助となれば幸いです。

次世代と地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト

大正井 株式会社大正井建設株式会社

歴史の館 R

地中に眠る 宮津城跡

ツアーマップ



宮津湾



11月10日
11月11日
11月12日



11月10日
11月11日
11月12日

11月10日
11月11日
11月12日



北都信金
本店別館



国道 178 号
水産事務所
警察署

関西電力

たもの木



見つけられたのよ (10)

内堀と石垣

イロモノナ

11月10日

11月11日

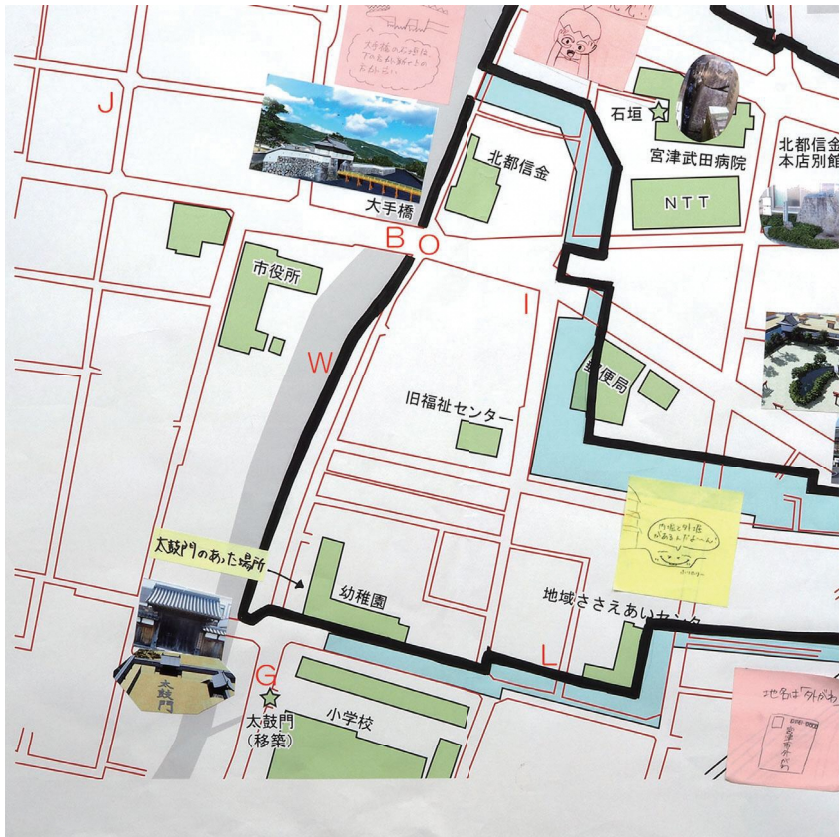
11月12日

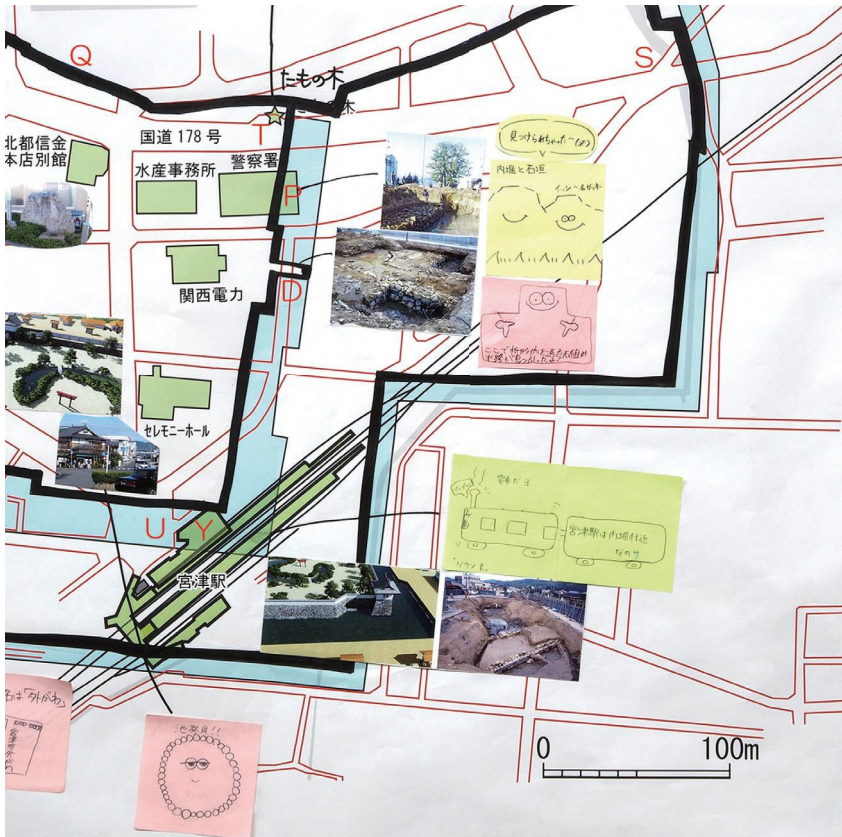
11月10日

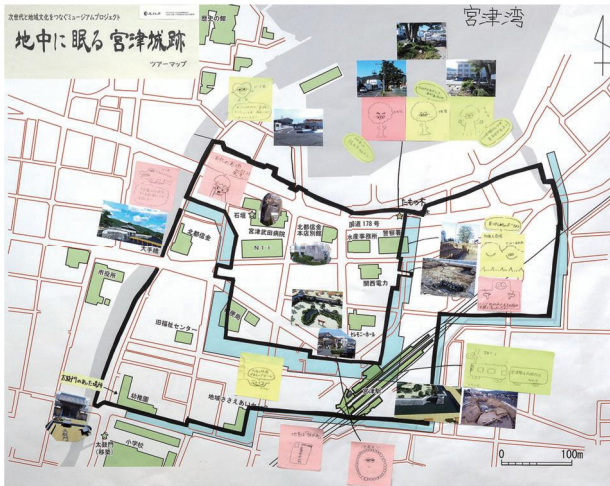
11月11日

11月12日









宮津城 AtoZ

発行日 令和4年3月18日

文・地図 [つなプロ宮津モデル参加者]

京都府立峰山高等学校 枝和生・和田樹

宮津市立宮津中学校・栗田中学校 有志

宮津市立宮津小学校 白石雄也

京都府立丹後郷土資料館 森島康雄

C G 古川輝夫

写真提供 亀岡市文化資料館

(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

協力 宮津市教育委員会・宮津市立宮津中学校・

宮津市立栗田中学校・慈眼寺・常立寺・

天授庵・塩見直紀 (半農半X研究所)

監修 京都府立丹後郷土資料館

発行 KYOTO 地域文化をつなぐミュージアム

プロジェクト実行委員会 (事務局：

京都府文化スポーツ部文化政策室、

京都府立京都学・歴彩館)

つなプロ体験ツアー動画はこちら！

https://youtu.be/uGbOE_Z2Y3o

